

「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 13 日

事業名称		狭山公民館事業費 [狭山公民館事業]									
予算科目	款	10	教育費	項	4	社会教育費	目	2	公民館費	事業番号	3
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> 補助対象 <input type="checkbox"/> 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	中央公民館 課 狭山公民館 係					課長名	伊藤 智				
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	1-2 ・ 5-3		
【施策名】 生涯学習の充実 共に支えあう地域社会の確立								総合計画書(ページ)	35・110		
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)					
	市民					湖畔、高木、狭山、清水地区に居住する市民の数(令和3年4月1日現在) → 公民館利用は地域制限はないが、近隣住民の人数とした。					
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)					
地域で、学習の場に参加できる。					①公民館主催事業参加者 ②公民館施設利用者(公民館主催事業参加者を除く) → ③定期利用グループ数(令和4年3月31日現在)						
③ そのために何をしましたか。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)						
①利用者連絡会等開催 ②講座開催 ③イベント開催 ④施設の貸出 ⑤狭山公民館だよりの発行					①利用者連絡会等開催回数 ②講座開催回数 ③イベント開催回数(令和4年3月31日現在) → ④施設の利用率 ⑤狭山公民館だよりの発行回数						
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標			
				平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績		令和4年度目標	令和5年度目標		
	対象指標	①の数値	人	15,244	15,201	15,182					
	成果指標	②の数値	①人 ②人 ③グループ	① 1,455 ② 14,564 ③ 56	① 80 ② 8,663 ③ 50	① 147 ② 11,255 ③ 48					
	目 標	②の目標値	①人 ②人 ③グループ	① 1,723 ② 14,749 ③ 51	① 1,455 ② 14,564 ③ 56	① 80 ② 8,663 ③ 50					
目標値設定の考え方 コロナ禍における利用者の活動の自粛や事業の縮小を踏まえて、前年度の数値を維持する。											
活動指標	③の数値	①回 ②回 ③回 ④% ⑤回	① 22 ② 22 ③ 2 ④ 54.02 ⑤ 3	① 7 ② 2 ③ 0 ④ 38.65 ⑤ 1	① 6 ② 5 ③ 1 ④ 40.74 ⑤ 1						
3 経費	事業費(実績)		円	12,879,272	33,046,277	25,515,186		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,250,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値(退職手当組合負担金、共済費も含む。)			
	財源	一般財源	円	12,756,452	13,958,357	13,400,776					
		特定財源(国・都・他)	円	122,820	19,087,920	12,114,410					
		(うち受益者負担)	円	122,820	87,920	114,410					
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	1.25	1.25	1.25					
		所要人数(再任用)	人								
	職員人件費(再任用以外)	円	10,387,500	10,475,000	10,312,500						
	職員人件費(再任用)	円									
事業費+人件費		円	23,266,772	43,521,277	35,827,686						
4 環境変化等	(1) 開始年度	51 年度									
	(2) 環境の変化	利用者の高齢化。 施設の貸出について、インターネット予約を平成27年10月から開始した。									

事業名称	狭山公民館事業費 [狭山公民館事業]					
担当部署・課長名	中央公民館	課	狭山公民館	係	課長名	伊藤 智

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 新型コロナウイルスの関係で、利用団体によっては活動を自粛する団体もあった。					
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。(複数回答可)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 取り組んだ	取組手法：⑤⑥(市報・市HP・フェイスブック・ツイッター・こうみんかんだより・地区館だより)⑦				
	<input type="checkbox"/> 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()				
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 日ごろから利用者とのコミュニケーションを図り、互いの信頼関係を築いていくことが、さらに適した協働の形態とするために大切である。					
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容(「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記) 公民館利用率について、令和2年度は前年度を下回り、狭山公民館は他館と比べ低い水準にある。これまで公民館を利用していた人たちの高齢化が進み、利用率減を招いている状況である。さらにレジャーが多様化される中、公民館に活動の場を求めている人が減ってきている。公民館の存在意義の伝承や魅力のある公民館運営が求められている。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 公民館利用率については、今年度は前年度と比べ新型コロナウイルスの制限が緩和され、事業やイベントを実施することができ、会員募集やイベントのポスター掲示等のグループ活動支援もできたため、令和3年度は1.67ポイント増加した。					
	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案) 公民館利用率について、令和3年度は前年度を少し上回ったが、狭山公民館は他館と比べ低い水準にある。これまで公民館を利用していた人たちの高齢化が進み、利用率の低さを招いている状況である。さらにレジャーが多様化される中、公民館に活動の場を求めている人が減ってきている。公民館の存在意義の伝承や魅力のある公民館運営が求められている。					
8	施策貢献状況(この仕事は、総合計画(基本計画)に掲げる課題の解決手段になっているか。) 施策名：生涯学習の充実 共に支えあう地域社会の確立 <input type="checkbox"/> なっている <input checked="" type="checkbox"/> 環境の変化等により成果が減少している <input type="checkbox"/> 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名()					
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性(「7 課題(3)」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など) <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 【取組内容】 利用率を維持又は増加させるには、主催講座からの新たなグループ作りを支援しながらも、既存グループに対し会員を増やす取組みも強化していくことが必要である。					
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 魅力のある事業を実施することで新たな公民館利用者を増やす方を講じていく。					